第46回コンクリート工学講演会 | A. 材料・施工 | ジオポリマー・アルカリ活性材料

ジオポリマー・アルカリ活性材料2

座長:温品達也(土木),土屋直子(建築)
2024年6月28日(金) 10:50 ～ 12:15 第1会場 (小展示室A)

[1201]自己充填ジオポリマーコンクリートに各種要因が及ぼす影響

金宇然[1], 藤山知加子[1] (1.横浜国立大学)

キーワード：自己充填コンクリート、ジオポリマー、フライアッシュ、高炉スラグ微粉末

本研究では高炉スラグ微粉末（以下， BFS）の置換率や細骨材種，練混ぜ時の気温が自己充填ジオポリマーコンクリート（以下， SCGC）の自己充填性や強度特性に及ぼす影響について実験的検討を行った。その結果，珪砂を使用した場合，粘性の増加が確認できた。また，20℃以下で練混ぜを実施すると粘性が増加するが，対策として材料の加温および水量添加が効果的であった。 BFSの置換率は，流動性に対する感度が高い一方で粘性に対する感度は高くはなく，結果として自己充填性に大きな影響は与えなかった。 SCGCの弾性係数はセメントコンクリート（以下， OPC）に比べて低かったがポアソン比は同程度であった。

©公益社団法人 日本コンクリート工学会